

FADO 8

Outubro 1995

月田秀子ファド倶楽部

TSUQUIDA HIDEKO FADO CLUBE JORNAL

①

月田秀子の昨日、今日、明日…

私がポルトガルで初めて歌った店は、「Tia Lo」というリスボンのアルファマにあった店である。天井の梁の太さと漆喰の壁の白さが印象に残っているが、2年後に訪れた時にはすでに店を閉めていた。老舗のファドの店にはない気取りのなさ、何よりも観光客のいないのが気に入っていた。

アントニオ・シャイーニョのポルトガルギターの繊細で気負いのないイントロが始まると店内が静まり返った。彼の横の柱に震える体をもたれかけ、目を瞑り恐る恐る声を出した。「Lisboa velha cidade... (古いリスボンの町よ)」その頃歌い始めた「懐かしのリスボン」である。歌い方も、発音なんかも目茶苦茶なんだろうな、そんな思いを吹き飛ばしてくれたのが、間奏の時間こえてきたそこに居合わせた人達の歌声だった。暖かかった、優しかった。歌い終わった時、拍手と喚声押し寄せて来た。皆顔を見合わせ東洋の意外なファドの歌声に驚いたようだった。テーブルに戻ると、ゴウヴェイヤ夫人が興奮した面持ちで震えている私の体を苦しいほどに抱き寄せてくれた。一人の老人が目に涙を浮かべながら、「国は違うが、あなたには『ALMA (魂)』がある。それは何よりも大切な事だ。」と自分の胸に手を当て、何度も「ALMA, ALMA」と震える声で繰り返した。その声は、その後の心細いポルトガル滞在中、何度も私を励ましてくれたし、今でも眠れぬ寂しい夜の闇の中、聞こえてくる。それと同じ事を6年後、初めてリスボンでソロコンサートをした時、アマリア・ロドリゲスに言われたにも関わらず、私の胸には、その老人の囁いた声と皺の刻まれた手のほうが鮮明に焼き付いている。

ギタリストのアントニオ・シャイーニョとはそれ以来の付き合いになる。実は彼は、久保田早紀の『異邦人』を始めとするLPレコードのバックを務めた人である。何とそれは1980年、リスボンで録音され、彼女もポルトガルに魅せられた人の一人なのである。ファドの『マリア・リスボア』のメロディーが『異邦人』を彷彿させるのも、それを聴いてなるほどと思った。

今回、「TSUQUIDA HIDEKO '95SPECIAL」としてファド倶楽部から会員の方々のみを対象としたテープを出したが、A面のCasa do Fado「SAO CAETANO」でのライブ録音で、華麗且つ絶妙なポルトガルギターを弾いているのが、彼アントニオ・シャイーニョなのである。3枚目のCDは是非彼に弾いてもらいたかったのだが、ロンドン交響楽団との録音になるCDが10月に発売と言う事で契約上3年間は誰とも録音できないらしい。テープでは彼のポルトガルギターと共に、店のざわめき、間奏のときの聴衆の歌声を通して、Casa do Fadoの空気を伝えたかった。私自身の声のコンディションは最悪だし、歌のキー（音の高さ）を指定しただけで、何の打ち合せもなしに歌った私のファドは聞くに耐えるものではないにも拘らずだ。でも、それも私。それでも聴いた人の感想を恐る恐る聞くと、「現地のファドの店の様子が曲がりなりにも伝わってきて良かった。」とか「私聞く人、あなた歌う人というのではなく、みんなで歌を盛り上げてゆく姿勢には、カルチャーショックを感じた。」とか、「いろいろな事が思い起こされて泣いてしまった。」なんて言う声も聞いた。何人かの人に喜んでいただけただけでも、作った甲斐があったと勝手に思い込むことにした。こんな調子でこれからもいきます。今後ともよろしくご叱咤、ご指導、激励たまわりますようお願い申し上げます。

<ギター制作雑記>

昨年ファド倶楽部に入会。あまりにも美しいポルトガルギターに魅せられ、神戸震災のその日からギター製作を始めた。震災の恐怖と相俟って僕の心も崩れてゆく。アコースティックギター、バスギター、バンドリン等、今まで15台を製作。その中で使えるようなものは2、3台。残りはゴミに。officeの片隅に追いやられている。

ギターを作りはじめた頃は笑われていた。ある人は、「楽器を作るには技術がいるよ」「材料もね」「やめなさい」と…。ギターを作るには若い頃から職人の世界に入り、修業しなければいい製作者になれないことも、彼は教えてくれた。ただ、その彼の声は、ある古楽器を作る人に出会うことで一瞬にして消え去った。

初めて作った楽器を持って彼の所へ行く。全てがだめだ。彼は大事にしている木（大変高価なもの）、それも30年も寝かせているものだ。惜し気もなくくれる。楽器を作るにはいい材料を使うこと、そして自分の教科書を作ること、そして楽器を作る道具をも自身で製作することも教えてくれた。

ド・レ・ミも分からず、楽譜も読めず、弦の数も分からず、ただ思い込みだけで歩き始めた。震災の中に身を置く彼らと同じく、精神力だけが唯一の支えだった。

この8月からギターを習いに行く（まだ2回目だけど）。あと10年がんばるだろう。その時、年離れた初老のギタリストが誕生（ぼくのこと）。そうした自分勝手な夢を見ながら製作に励んでいる。たぶんその頃にはツエ代わりにギターを持っているのかもしれないが……。ちょっと小ぶりのツエギター。転んでもクッション代わりになる。椎間板ヘルニアのギタリストには必需品。

仕事の中ではけづして味わえない人の関係。ファド倶楽部の人達は、48歳の僕にとっての第2世代の新しい友人達だ。今まで趣味というものを持たず、己れのみを信じ、模索しながら歩いてきた私に、月田さんをも含めたギタリストの忠さん、健二さん、昌ちゃん、そしてファド倶楽部を今まで支えてこられた山口さん、井本さん達とも友達になれたことが、僕には大変喜ばしいことだ。

楽器製作を始めたことによって、難解な問題にぶちあたる。その波は、始めのうち打ち消そうと努力する。するとまた、新しい波が押し寄せてくる。1本1本製作されてゆくギターにその想いが刻まれる。

今、新しい、意味の違う波が僕に押し寄せてくる。波を打ち消すことより、その波に乗って逆らうことなくゆっくりその中に身を置きながら創ることがやっと出来るようになった。また新しい波が今も打ち寄せてくる。僕もサーファーになれそう。腰を鍛えてサーファーにもなりたいたいと思ったその日、椎間板ヘルニアが再発。
(建築家 吉田保夫)

cartas

先日の総会は盛況でお喜び申し上げます。いろいろ趣向を凝らされて、楽しい一時を過ごすことができました。皆様もきっとご満足されたのではないかと思います。帰りにテープまで頂いてありがとうございました。特にB面の『ツクマンの月』特集は私にとっても懐かしく、うれしく思っております。

『俺も昔、歌ったことがあるぞ』というわけで、脚立にのぼって本棚の上の古いテープをひっぱり出しました。

月田さんのテープを聞いた後で、多分、30年くらい昔の歌声を聞くと、感情も何もなく唯、声を張り上げているというだけの事でへたくそで聞いていけないのですが、譜面がなかったものですから、レコードから歌詞を片仮名で写しとって、楽譜をつく

ったことが懐かしく思い出されます。

そのへたな歌とギターを、月田先生にちょっと聞いてもらおうと思って、一番だけダビングしました。これは学生時代に、クラシックギターの二重奏を組んでいた西川公平という人に、歌なんか歌えるか…というのを無理矢理メロディーの三度下を覚えてもらって私の家で練習しているところです。

①最初は、私が私のパートを練習しています。

②生まれて初めてやった二重奏でした。

③私達は、『牛車にゆられて』も練習しました。

どちらが先の録音かわかりませんが。

…月田さん、あなたが生まれるずっと、ずっと前に、ユバンキは『おいら』の青春でした。

坂本恭三

読切連載
秀子のエピソード帖
[その6]

ファド倶楽部総会の事など

内間 天馬

昨年、ファド倶楽部第一回総会の司会を仰せつかった僕は、慌ただしい打合せの中で、会長名に黒田清とあるのを見つけ、月田さんに、どういう関係？と尋ねました。「ラジオの番組でご一緒に、大変ファドにご理解があるので会長をお願いしたの」どういう方か知ってるの？「よく知らないけど、ジャーナリストかな？」月田さん、な、なんということをして！日本で最も尊敬すべき、偉大な、かつ超多忙なジャーナリスト、僕ちゃん大好きなお方なのよ。彼の事をよく知らないで気軽に会長を頼むなんて、おぬし、それはちょっと問題やど〜。「だけど、こころよく引き受けていただいて...、ほらほら、おいでになったわ」日本のマスコミ史上、語り草の大活躍をされた読売新聞記者時代以来、僕は、黒田さんにずっと尊敬の念を抱き続けてきたのです。その偉大なお方が突然目の前に現われたもんだから、こりゃ一体どない

なっとるの、と一瞬慌てました。が、テレビで拝見するのとまったく変わらない気さくさで僕の説明に耳を傾けて下さった黒田さん。エラそうにしない偉い人って、意外と少ないんだよね。実るほど頭を垂れる稲穂かな...。それにしても一部の政治家の態度たるや...。それにしても月田嬢の心臓たるや...。黒田さん、いや黒田会長、これからもホンマによろしくね。

先日、第二回総会が催されました。会員の皆様は勿論のこと、岐阜や東京など、遠方からおいで下さった熱心なファンの方々、ほんとにおおきにね。ポルトガルワインやビールを楽しみながらの和気あいあいの雰囲気の中、さり気なくピアノを弾き始める月田さん。次第にピアノの音に自分の歌を乗せて...。いつの間にかミュージシャン達がステージに集結し、彼女の歌に合わせて伴奏を始める...。これはよかった。彼女をサポートする素晴らしい音楽家を紹介する司会者の僕に、何を思ったか月田さん。「今日はね、ブラジャーしてますわよ」以前、このコラムで、月田嬢はいつもノーブラです、とバラしちゃった事を覚えてたのね。で、僕の反応、一あらっ、持ってたのね...で、サイズ？-

(注)今回のこのコラム、すべて事実です...秀子

先日の総会、お疲れ様でした。

私は一人で、しかも初めての参加でしたので、どんな感じかなと少し不安でしたが、お陰で素晴らしい時を過ごすことができました。

お料理も演出も、そしてもちろん月田さんの歌や演奏もとても素晴らしかったですけれど、私はおみやげにいただいたテープに大変感激しました。

本当に生々しい録音で見たこともないポルトガルの町が現われてそれこそ蠅のにおいまでしそうでした。きつとずいぶん大変な作業をされたことと思います。吉田さんにも本当に有難うございました...とお伝えくださいませ。今度はコンサートでお目にかかれるのを楽しみにしています。

これから寒くなっていきますが、お身体に気をつけて頑張って下さい。お世話して下さいました皆様にもありがとうございました。 白井いづみ

秋風が心地よい季節です。過日11日、島田市でも秋風と虫の声のなか、素晴らしい歌を聞かせて頂き心地よい興奮を味わわせていただきました。ありがとうございます。良いもの、感激するものに出会えたことはしあわせです。

それに、月田さんのFADDOにかかる情熱とお人柄の良さ（お会いしたばかりで知ったふうなことを云ってしまいますが）に加えて何ともチャーミングな女性でした。技術的なことはもとよりそこに表れる人間性が好きになるかどうか私にとってはとても大切なことのように思います。とまあ生意気なことも書き連ねましたが、甲府での実現の方法を模索したいと考えております。その時にはどうぞよろしくお願い致します。ご迷惑のかからないよう且つ満足な状態に持っていきたいと思います。その時は島田市からもかけつけるそうです。お元気で御活躍ください。 島田節子

informação

月田秀子のスケジュール

12月5日(火) 大阪・サンケイホール

『月田秀子ファドコンサート'95-私の中のファド』

開場 6:30 p.m 開演 7:00 p.m 入場券 5000円(全席指定)

'90年以来5年ぶりのサンケイホールでのコンサートです。この一年をしめくくるにあたって、月田のスケールの大きい歌唱力はライブとは違った感動を私たちに与えてくれることでしょう。

ファド倶楽部の会員一人一人の力を総動員して彼女を支えたいと思います。ポスター、チラシ、チケット等置いてくださるところがありましたら是非ご一報ください。会員の方々のため良い席をご用意しています。先着順に受け付けていますので、お早い目にお申し込みください。

■毎週木曜日 大阪/心斎橋「麓鳴館」

10月、12月はお休みです。

11月2日、9日、16日、23日、30日

TEL.06-241-9219 ①8:00 ②9:00

10月14日(土) 尼崎「獨木舟」-月田秀子ドラマチックファドライブ-

TEL.06-413-9253 7時開演

10月27日(金) 京都/四条河原町「巴里野郎」

TEL.075-361-3535 ①8:00 ②9:00 ③10:00

10月28日(土) 兵庫/御影「マルルース」

TEL.030-629-8839

10月30日(月) 大阪/心斎橋「アートクラブ」

TEL.06-253-0827 8時から、3回ステージ(入替なし)

11月12日(日) 兵庫/六甲アイランド・甲南大学南グラウンド

震災復興・生命の祭~1995 in KOBE~

TEL.078-811-0507 同実行委員会

11月24日(金) 京都/四条河原町「巴里野郎」

TEL.075-361-3535 ①8:00 ②9:00 ③10:00

11月27日(月) 大阪/心斎橋「アートクラブ」

TEL.06-253-0827 8時から3回ステージ(入替なし)

11月28日(火) 大阪/中之島中央公会堂「'95 EST-NIGHT」

TEL.06-312-1866 ミュージックインフォメーション

12月16日(土) 高野山/天野・畑邸ライブ

12月17日(日) 和歌山/橋本地区公民館

TEL.0736-32-0547 後藤歯科

12月25日(月) 大阪/心斎橋「アートクラブ」

TEL.06-253-0827 8時から3回ステージ(入替なし)

12月29日(金) 京都/四条河原町「巴里野郎」

TEL.075-361-3535 ①8:00 ②9:00 ③10:00

お知らせ

- 総会にご出席の方々にお持ち帰りいただきました^(秘)テープ『TSUQUIDA HIDEKO '95special』をご希望の方は、郵送実費250円を、同封の郵便振替用紙にてお送りください。
- 会費納入のお願い
96年度(95.9~96.8)年会費3000円
同封の郵便振替用紙にてお振込みくださいますようお願いいたします。(出費のかさむ事ばかりで恐縮

- ですが、よろしくご了解の上ご協力お願いします。)
- 11月25日、新潮社から発売予定の「かっぱの本」シリーズ『ポルトガルへ行きたい』に月田がファドによせて執筆しています。彼女とのポルトガル旅行をファド倶楽部で企画したいと思っています。
 - 魅力あるファド倶楽部にしてゆきたいものです。ファド倶楽部へのご意見ご希望等お気軽にお寄せください。

編集後記 | 12月5日のサンケイホールでのコンサートの準備であわただしい毎日です。ポルトガルから二人のギタリストも来日してくれることが決定したようです。楽しみにしましょう。(Y)

■月田秀子ファドジャーナル第8号
■1995年10月1日発行(季刊誌:年4回発行)
■編集・発行 「月田秀子ファド倶楽部」事務局
■〒543 大阪市天王寺区小宮町1-22、5-西F
■TEL&FAX 06-779-4597